

第1章

東広島市の環境活動事例紹介



紹介している環境活動事例

東広島市内では各地域で多くの環境活動が行われています。ここでは、その中でも特徴的な活動を一部抜粋して紹介しています。

紹介している活動は、地域も目的もきっかけも様々です。皆さんの地域の活動の参考になるものがありましたら、ぜひご活用ください。

なお、それぞれの活動について詳しくお知りになりたい場合には、市環境対策課までご連絡ください。



■東広島市環境対策課 (TEL: 082-420-0928)

掲載している活動の一覧 (掲載は5~28ページ)

地区	環境活動名	活動している人たち(主催者)
西条	1 花いっぱい運動	西条市街地地区社会福祉協議会
	2 山のグラウンドワーク	 西条・山と水の環境機構
	3 黒瀬川の水質検査	寺西女性会
	4 大迫山の遊歩道整備	板城小学校区住民自治協議会
	5 リユース市	 えこページ
八本松	6 「磯松 花咲かせ隊」活動	磯松中学校
	7 「広島セブンの森」づくり活動	(株)セブン・イレブン・ジャパン、地元住民、東広島市の職員
志和	8 自然体験学習会:五感で楽しむ里山の12か月	 NPO 法人 メセナ SUN-CLUB 学びの森
	9 サルビア街道づくり	志和堀小学校
高屋	10 田植え体験・稲刈り体験・餅つき・椎茸駒打ち体験	農事組合法人さだしげ
	11 校内外の緑化活動	高美が丘中学校

次ページに続く

地区	環境活動名	活動している人たち（主催者）
黒瀬	12 ひろしまの森づくり事業	大多田生産森林組合
	13 水辺教室	東広島市公衆衛生推進協議会 黒瀬支部
	14 神洗川（ホタル川）の清掃	丸山ほたるの会一同
福富	15 ホタルの里づくり	上戸野地区住民自治協議会
	16 えひめA1（環境浄化微生物）の作製・配布・普及	東広島市公衆衛生推進協議会 福富支部
	17 沼田川探検	 すいすい倶楽部
豊栄	18 国の特別天然記念物 オオサンショウウオの保全活動	豊栄小学校
	19 エヒメアヤメの里づくり	エヒメアヤメの里 天神原 同好会
河内	20 希少植物の保全活動	宇山地域農地環境保全管理組合 山野草クラブ
	21 ごみの分別・リサイクル習慣	入野 篁の郷、入野地区公衆衛生推進協議会
安芸津	22 干拓堤防松並木の整備作業	風早自治協議会、風早公衆衛生推進協議会
	23 木谷はっけん野あそび会	木谷はっけん野あそび会



このマークが付いている団体は、「エコネットひがしひろしま会員」です。

会員募集中！！エコネットひがしひろしま

○エコネットひがしひろしまとは

市民・事業者・団体と市が連携・協力して、環境問題の改善に向けた実践・啓発活動に取り組み、持続可能な社会の実現をめざしたまちづくりを推進することを目的として設立されました。



○主な活動内容

交流会の開催、環境・温暖化問題に関する出前講座、施設見学会、環境啓発イベント、簡易な省エネ診断、各種イベントへの出展など、地球温暖化対策にとどまらず幅広い活動を行っています。

また、会員を随時募集しています！

活動内容などについてもっと詳しく知りたい方は、エコネットひがしひろしま で検索してホームページをご覧ください。

1

花いっぱいのまちなみウォーク

～ 「西条の街並み」を歩いて、見て、聴いて肌で感じよう ～

活動している人たち	西条市街地地区社会福祉協議会・西条地区公衆衛生推進協議会
主な活動地域・場所	酒蔵通り周辺
目的	花のとりもつづくり
主な活動	<p>地域住民が、街並みに年2回プランターに花を植え、人々の心と花の環境美化に努めています。</p> <p>平成29年度に小学3年生が街並み歴史ポイント8か所を巡る「花いっぱいまちなみウォーク」を初めて開催しました。地域住民110人、生徒170人に加え、街頭応援の人が参加され、子どもと地域とのつながりの第一歩となりました。</p>  
 ここがポイント！	<p>◎西条小学校の教育方針に従い、街並みに並ぶ花を道しるべに街の歴史ガイドを企画しました。</p> <p>◎平成21年から推進する「みんなで考える街づくり(福まち会議の集い)」の中で提案された「西条小学校との連携」を「花いっぱいまちなみウォーク」として実現しました。</p> <p>◎平成21年から継続し、広がりを見せていることが、花いっぱい運動の成果です。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成21年10月 酒都にふさわしい美しい町づくりを目的として、街並みに花を増やす活動を始めました。</p> <p>平成28年2月 西条小学校に今できる地域協力の申し出を行ったところ、3年生の社会科地域学習への組み入れが決定。街並みの学習のための企画を開始しました。</p> <p>平成29年11月 花いっぱい街並みウォーク実施しました。</p> <p>平成30年2月 西条小学校作品展『「ふるさと西条」大発見』の中に3年生全員の作品(生徒171人と地域の人が歩む地図)並びに花植プランター配置しました。</p>
 今後の展開	<p>花いっぱい運動に参加される方も増え、又、街並みに花が増えてきました。水やりなど花のお世話は大変ですが、一緒に参加している人の花と比べたり花の元気を眺めて歩く楽しみが生まれています。地域のつながりを深めるため、活動を継続していきたいと思えます。</p>
 活動者から	<p>「花いっぱいまちなみウォーク」運動が、「日本の20世紀遺産」に選定された西条のまちなみの一助となる活動となるよう、展開する日が来ることを願います。</p>

2

山のグラウンドワーク

～ 環境と心を育てていきたい ～

<p>活動している人たち</p>	 西条・山と水の環境機構
<p>主な活動地域・場所</p>	龍王山、憩いの森
<p>目的</p>	里山の環境保全
<p>主な活動</p>	<p>東広島市内の企業、大学生、高校生、市民団体の方などに参加頂き、下草刈りや除伐などの山の手入れ作業を行い、西条の山と水、そして美しいふるさとの景観を守っています。また、作業で発生した材は堆肥や木質バイオマス燃料（薪・炭やペレット）に加工して、エネルギーとしてリサイクルする取り組みもしています。</p> 
<p> ここがポイント！</p>	<p>◎山の手入れだけでなく、雨天で山の手入れ作業ができない場合でも大学の先生方の講義を受けることもできます。</p> <p>◎小学校や高校、大学の体験授業の一環で参加されることもあります。山の手入れについて体験するだけでなく、活動を通じて山の保全が西条の名水を作ること、そして西条の文化を守ることに繋がることを感じてほしいです。</p>
<p> これまでのあゆみ</p>	<p>平成11年11月 西条酒造組合において「環境をテーマにした地域貢献活動」について検討することを決定しました。</p> <p>平成12年11月 第1回山のグラウンドワークを開催しました。</p> <p>平成13年 5月 西条・山と水の環境機構を発足させました。</p> <p>平成30年 3月 第84回山のグラウンドワークを開催しました。</p>
<p> 今後の展開</p>	<p>私たちは西条酒造協会加盟者の酒の売上の一部（1.8%当り1円）を拠出し、基金として年々蓄えています。引き続き、自ら汗を流して活動するとともに、多くのグループの森林保全活動や調査研究活動を支援していきます。</p>
<p> 活動者から</p>	<p>山のグラウンドワークは、年間4回開催している誰でも参加できるイベント型の活動です。作業内容を講師が指導しながら行いますので、初心者の方もお気軽にご参加ください。</p>

3

黒瀬川の水質検査

活動している人たち	寺西女性会
主な活動地域・場所	黒瀬川水系
目的	黒瀬川の環境保全
主な活動	<p>黒瀬川周辺のゴミ拾いと、水質の調査を行っています。また、様々な会合にも出席し、自分たちの活動紹介や、河川の環境保全の必要性、自分たちの意識改革を推し進めています。</p>  <p>環境問題についての勉強をしたり廃油石けんを作ったりして、水質改善のために取り組める身近なことから取り組んでいます。</p>
 ここがポイント！	<p>◎15年以上続けてきている歴史と実績があります。</p> <p>◎水質汚濁の加害者は自分たちなのだという意識の醸成を図っています。</p> <p>◎自分たちの活動は、黒瀬川周辺に広がりを見せ始め、ゴミ拾いや草刈りなどで黒瀬川の環境は徐々に良くなってきていると感じます。</p>
 これまでのあゆみ	<p>【活動開始時期】 平成13年頃</p> <p>市の協力と助言のもと、黒瀬川の水質調査地点を選定し、水質調査を開始。他にも、毎月健康教室の前に、黒瀬川周辺でゴミ拾いをしたり、近くの小学校で出前講座を実施したり、年1回は勉強会を開催。総会等で廃油石けんやプリン石けんの配布もしており、フォーラムへの参加や各種会合への参加し環境保全の啓発をしてきました。</p> 
 今後の展開	<p>「継続は力なり」といいますが、環境の保全では特に大事なことです。今後も、継続してゆき、黒瀬川の環境を保全していきます。</p>
 活動者から	<p>洗濯器とともに合成洗剤が普及しました。それに伴い黒瀬川が泡立ち始めたのが活動のきっかけです。環境破壊の原因は自分達であることを認識し、これまでの個々のライフスタイルを変える勇気を持ってもらうきっかけづくりをしていきたいです。</p>

4

大迫山の遊歩道整備

～市民が訪れたくなる大迫山を守ろう～

活動している人たち	板城小学校区住民自治協議会
主な活動地域・場所	大迫山遊歩道
目的	市民が快適に散策できる大迫山の遊歩道を維持する。
主な活動	<p>西大沢地区のテクノタウンに隣接する大迫山（343m）の遊歩道整備です。定期的な見回りや管理は住民自治協議会が行っていますが、年に1回は、約200人が参加して、丸太の補修、倒木の除去、草刈り、案内板の設置などを行っています。</p>
 <p>ここがポイント！</p>	<p>大迫山は、春にはみんなで植えた遊歩道沿いの桜が咲き、市民の目を楽しませてくれます。また、山頂まで登ると北は、鏡山・西条駅、東は広島空港、西は吉川工業団地を望むことができ、季節によって様々な風景を見ることができます。多くの地域住民が整備に関わることで、愛着ある憩いの場になっています。</p>
 <p>これまでのあゆみ</p>	<p>平成 25 年 4 月 住民自治協議会の発足を機に整備活動を始めました。広島県の「ひろしまの森づくり事業」の補助金などを財源に整備を続けています。</p>
 <p>今後の展開</p>	<p>大迫山は尾根筋に「探照灯の跡」など、戦争の史跡が見られる歴史的な側面もある山です。現在、大迫山の案内パンフレットを改訂中で、板城地区以外の人たちへも大迫山の魅力を発信していきたいと考えています。</p>
 <p>活動者から</p>	<p>この遊歩道は、平成 14 年頃に広島県によって整備されましたが、その後、地域での維持管理が十分にできていませんでした。そこで、住民自治協議会の環境・景観部会が中心となり、地域の資源としての有効活用を目指して、活動を始めました。</p> <p>しかし、現在は、活動に参加する人たちの高齢化が進み、今後、どのように活動を続けて行くのかが課題となっています。</p>



大迫山山頂に設置した案内板

5

リユース市

～いらぬものを再び価値あるものに～

活動している人たち	 えこページ
主な活動地域・場所	広島大学 東広島キャンパス
目的	広島大学の学生が出すゴミを減らしたい！
主な活動	<p>卒業生が不要になった家具などをゴミにすることなく、再び価値あるものに生まれ変わらせることを目的に行っている活動です。</p> <p>春休み中に卒業生の不用品を収集して回り、大学内の会場に展示しています。会場には多くの新入生や在学生在が訪れ、毎年、ほぼ完売しています。</p> <p>なお、この活動は非営利で行っていて、売上金は次年度の活動費に回しています。</p>
 ここがポイント！	<p>「いらぬものを再び価値あるものに」という思いで行っている、私たちの最大の活動です。不用品とはいえ、学生時代にしか使っていない家具はまだまだ使えます。初めて一人暮らしをする新入生には、「物を無駄にしない」気持ちを持って学生生活をスタートしてほしいと思っています。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成21年以前から活動は行っています。</p> <p>平成21年 初めてレンタカーを借りて家具を回収</p> <p>平成23年 開催場所を総合科学部棟から学生会館一階へと移動 家具家電完売</p> <p>平成24年～平成29年 毎年大盛況の賑わい</p> <p>平成30年 「STUDY FOR TWO」(途上国の子どもたちの教育支援を行う学生の団体)と協力して家具・教科書・古本を回収</p>
 今後の展開	<p>リユース市を通してゴミの量は大幅に削減できています。ですが！！えこページはこれだけでは満足しません。今年度は「STUDY FOR TWO」さんと提携して家具と一緒に教科書・古本の回収・販売を行います。家具のみならず教科書・古本を新入生へと提供することでより一層ゴミを削減していきたいと思っています。</p>
 活動者から	<p>自分にとって不要であっても他の人にとっては必要なものになる可能性はあります。家具が再び価値のあるものへと変われるように雨の日でも風の日でも家具の回収を行っています。活動を通して少しでもゴミを削減できたらと思います。</p>



リユース市の様子

6

「磯松 花咲かせ隊」活動

～自己肯定感を高め、地域との絆を深めよう～

活動している人たち	磯松中学校
主な活動地域・場所	磯松中学校校区
目的	環境教育
主な活動	<p>生徒が自ら育てた花を、地域の保育所や諸施設約 20 箇所に配付する活動をしています。ボランティア活動を通じて、「生徒の自己肯定感を高めること」・「地域と係るきっかけを創ること」ができます。また、配布先や地域の皆様から、「いつもありがとう」、「次はいつ持ってきてくれるの」などの声かけをしていただけることが大きな励みになっています。</p> 
 ここがポイント！	<p>磯松花咲かせ隊は、すべての部活（15）が、プランター4箱に花の苗を植えます。苗は、地域の花を栽培されている方から安価で提供していただいています。土は、現在は、部活の代表が肥料等を混ぜて準備しています。プランターには、“磯松花咲かせた隊”というロゴを貼り、地域の20箇所の施設等に生徒が持って行きます。</p>
 これまでのあゆみ	<p>磯松花咲かせ隊は、平成30年4月で6年の取組に入ります。初年（平成25年）度、部活単位で、校地周辺及び近隣の地域のゴミ集めを始めたのがすべての始まりです。生徒がゴミ集めをする姿に、“ありがとう、きれいになるよ”等の声掛けをいただきました。地域のみなさんにもっと喜んでいただこうと、花を届ける活動も開始しました。地域には花を届けるだけではなく、地域の施設や祭での交流で、笑顔や生き生きと活動したり演奏したりする姿も届けています。</p>
 今後の展開	<p>花を届ける活動等を通して、今後も、地域の学校、地域に生きる生徒として、地域に貢献する生徒の育成に継続して取り組みます。また、校内花いっぱい活動も行っています。</p>
 活動者から	<p>最初は、土が作れるかな・花の苗を植えることができるかなと、不安がありました。先輩からわかりやすく教えてもらい、きちんとプランターを完成することができました。地域の方へ届けるときは、挨拶の仕方先輩が教えてくれました。そして、花を届けたとき、“待っていたよ。ありがとう。”と言っていただきます。うれしいです。いろいろなつながりができているなあと感じます。</p>

7

「広島セブンの森」づくり活動 ～ 吉川の里山環境を守ろう！～

活動している人たち	(株)セブン・イレブン・ジャパン、地元住民、東広島市の職員 ※広島県と(株)セブン・イレブン・ジャパンとの包括協定に基づき、東広島市と森の協定を結び、賀茂地方森林組合が間伐・植樹作業を指導
主な活動地域・場所	八本松町吉川
目的	里山の環境保全
主な活動	<p>「広島セブンの森」は2013年に協定期間6年(2013年～2019年)として4月から活動を開始しました。開始時の活動範囲は2haでしたが、現在3.6haに拡大し、松枯れ対策として、これまで抵抗性マツや広葉樹を33,230本植樹してきました。</p> 
 ここがポイント！	<p>◎(株)セブン・イレブン・ジャパン本部と加盟店が一緒に取り組む、企業と地域が一体化した活動です。</p> <p>◎整備された森では、春には桜まつりが行われ、地域住民の憩いの場になっています。</p>
 これまでのあゆみ	<p>【活動開始時期】2013年</p> <p>第1回 2013年4月27日 植樹 650本 131名 142名</p> <p>第2回 2013年10月26日 植樹 450本 27名 31名</p> <p style="text-align: center;">～</p> <p>第9回 2017年4月22日 植樹 500本 153名 160名</p> <p>第10回 2017年11月4日 植樹 500本 155名 160名</p>
 今後の展開	<p>今後もエリアを拡大しながら、豊かな森づくりを進めていきたいと思えます。</p>
 活動者から	<p>作業前と作業後の様子は一目瞭然で、山がきれいになってよかった。汗をかきながら作業をしたかいたがあった。</p> <p>山は傾斜が厳しく、つらいこともあったが、終わってみればさすががしい気分になった。等の声が上がっています。</p>

8

自然体験学習会：五感で楽しむ里山の12か月
～ 来て、見て、触れて、楽しく学ぼう ～

<p>活動している人たち</p>	<p> NPO 法人 メセナ SUN-CLUB 学びの森</p>
<p>主な活動地域・場所</p>	<p>志和町の「なみ滝藤原園野外活動場」</p>
<p>目的</p>	<p>環境教育</p>
<p>主な活動</p>	<p>自然観察、植物を使った工作、野菜の栽培、食事やおやつの野外料理など様々な体験をしています。</p> <p>参加している子ども達は、鳥のさえずりを聞き、植物や土の香りを感じ、体験活動を五感で楽しみながら積極的に取り組んでいます。</p> 
<p> ここがポイント！</p>	<p>◎1年間の活動を通して、様々な自然と触れあい、多くの仲間と交流ができます。</p> <p>◎自然から様々な刺激を受けながら活動するので、感受性が豊かになります。ここでの体験が、自分の可能性に気付くきっかけとなり、個性を伸ばす子も多くいます。</p>
<p> これまでのあゆみ</p>	<p>平成21年9月 ファミリーランド跡地だったなみ滝が荒廃していくのをみて、この環境を保全し、維持していきたいと任意団体を立ち上げました。</p> <p>平成23年4月 子ども達の五感を育てていきたいという考えから、学校と連携を取りやすくできるような非営利団体となりました。</p>
<p> 今後の展開</p>	<p>◎活動を拡大するのではなく、持続的に続けていきたいと考えています。</p> <p>◎子どもたちに、この体験学習会で得た経験を活かして、立派な大人になり、大人になった時に生きがいや、やりがいを持って心豊かに暮らしてほしいと願っています。</p>
<p> 活動者から</p>	<p>子ども達は上達が早く、年間を通じて参加した子は初心者の大人よりも手際よくこなしていきます。</p>

9

サルビア街道づくり

～志和堀を真っ赤に彩るサルビア街道～

活動している人たち	志和堀小学校
主な活動地域・場所	志和堀小学校、志和堀交差点周辺
目的	環境教育
主な活動	<p>志和堀小学校の児童、PTA、地域住民が協力して、サルビアの苗を育てています。</p> <p>育てたサルビアを一斗缶やプランターに移植し、毎年9月頃には真っ赤なサルビアが志和堀交差点に並んでいます。</p> <p>地域の協力があり、設置した後は、地域の人たちが交代で水やりをし、枯れないようにお世話をしています。</p> 
 ここがポイント！	◎学校、家庭、地域が一体となっていくサルビア栽培は昭和61年から継続されている活動で、今年で32年目になります。毎年400個の一斗缶やプランターを学校近くの県道に並べ、「志和堀サルビア街道」として道行く人の目を和ませています。
 これまでのあゆみ	【活動開始時期】昭和61年頃 当時の校長先生が校庭の花壇で芽を出しているサルビアを見つけ、鉢に移し育てたのがきっかけです。翌年4～6年生が1,500本のサルビアを育て、また夏休み中には全児童が2本ずつ苗を持ち帰って育てました。県道沿いにも88個のサルビアの鉢植えを置いたのがサルビア街道の始まりです。以降、32年間サルビア栽培を続けています。
 今後の展開	32年間受け継がれているサルビア栽培、サルビア街道づくり。この伝統ある活動を今後も続け、環境美化を通して安心・安全な町づくりにも貢献していこうと思います。
 活動者から	サルビア栽培活動を通して、児童に命の尊さ、地域への愛着と誇り、感謝の心を育てていきたいと思っています。

10	<h2 style="margin: 0;">田植え体験・稲刈り体験・餅つき・椎茸駒打ち体験</h2> <h3 style="margin: 0;">～ 地域の自然とお米を好きになってほしい! ～</h3>
活動している人たち	農事組合法人さだしげ
主な活動地域・場所	高屋町貞重
目的	環境教育
主な活動	<p>一般の方に田植えや、稲刈りなどの農業体験をしてもらっています。また、私たちが行う農業活動が環境に与える影響を最小限にとどめています。そして地域のこども会と、河川の清掃活動やホタルの幼虫の放流などを行うなど、地域を流れる入寺川がホタルの住める川になるように、「ホタルの里づくり」活動を行っています。</p> 
 ここがポイント!	<p>◎農薬散布を適切な時期に行うことで散布量を通常の半分に抑えています。さらに、肥料は地表散布ではなく、地中にペースト肥料を注入することで田から流出する量を抑えています。</p> <p>◎田から川へ流れ出る水に含まれる農薬や化学肥料、泥水などを最小にすることで環境保全を行っています。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成13年11月 農事組合法人さだしげを設立しました。</p> <p>平成16年 市民農園を開設しました。</p> <p>初めての方には相談を受けながら指導も行いました。</p> <p>田植えなどの体験は、当初市民農園利用者やお米の購入者に来てもらっていましたが、多くの人に楽しんでもらえるよう一般の方にも体験に参加していただくようにしました。</p>
 今後の展開	<p>6月頃に「田植え体験」、10月頃に「稲刈り体験」、12月頃に「餅つき」、2月頃に「椎茸駒打ち体験」を開催しています。誰でも参加できるイベントですので参加ご希望の方は農事組合法人さだしげにご連絡ください。TEL:082-439-1236 FAX:082-439-1270</p>
 活動者から	<p>こども達には、外で元気いっぱいの活動を通して地域の農業やお米に愛着を感じてもらい、地域の環境を大事にする気持ちを持ってもらいたいと願いながら、活動しています。</p>

11

校内外の緑化活動

～ 全校生徒で取り組む環境活動 ～

活動している人たち	高美が丘中学校
主な活動地域・場所	高美が丘中学校区内
目的	環境教育、緑化・育樹活動
主な活動	<p>地域の方々と協力しながら、全校生徒が校内外の緑化・育樹に積極的に取り組み、美しい学校づくり・地域づくりを行っています。緑化活動は環境問題の行動化のスタートとして、持続可能な社会の担い手作りを進めています。</p> <p>平成 27 年度には、全日本学校関係緑化コンクールで特選（文部科学大臣賞）を受賞し、平成 28 年度、全国植樹祭で表彰されました。</p> 
 ここがポイント！	<p>◎地域の活性化や美しい景観形成につながっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のクリーン活動 ・町内施設へのクシヨンマムのプレゼント活動 ・地域住民参加の菊づくり講座及び菊花展の開催 ・学校や地域センターでの門松作製と設置 等
 これまでのあゆみ	<p>【活動開始時期】 平成 25 年</p> <p>平成 25 年度・・・全日本学校関係緑化コンクール「準特選」受賞 東広島アザレア賞受賞</p> <p>平成 27 年度・・・全日本学校関係緑化コンクール「特選」 文部科学大臣賞（全国 1 位）受賞 東広島アザレア賞受賞</p>
 今後の展開	<p>◎学校緑化活動を柱にした、命を大切に、潤いのある環境づくり・教育活動の更なる推進。</p> <p>◎住民自治協議会や地域センター、地域の人材（マイタウンティーチャー）等、地域と連携した学校教育の更なる推進。</p>
 活動者から	<p>今後も生徒、教職員、保護者、地域が緑化活動を通して地域や学校を潤いのある環境にする活動を推進し、生徒に生命尊重の精神や、社会や地域の一員であるという自覚をさらに醸成していきます。</p>

12

ひろしまの森づくり事業

<p>活動している人たち</p>	<p>主催者 : 大多田生産森林組合 協力者 : 広島県</p>
<p>主な活動地域・場所</p>	<p>黒瀬町大多田地区</p>
<p>目的</p>	<p>ひろしまの森づくり事業をとおした「環境の心」を育てる取り組み</p>
<p>主な活動</p>	<p>広島県の“ひろしまの森づくり事業”の支援を受け、大多田生産森林組合では、大多田八幡神社が将来的に建て替え等で材木が必要になる事態を見据え、神社の用材木を目的に桧を大多田生産森林組合所有地内に植付ける植栽活動を行っています。</p> 
<p> ここがポイント!</p>	<p>◎大多田生産森林組合では、大多田地区の森林財産に繋がる植樹活動のお手伝いを通じて、これからも環境と心を育てる取り組みに、携わっていきたいと思っています。</p> <p>◎水源涵養上必要な保安林のうち、機能が低下している森林を急速かつ計画的に整備して水源涵養機能の回復を早期に図ることを目的に活動しています。</p>
<p> これまでのあゆみ</p>	<p>【活動開始時期】 平成23年4月3日に地元の要請を受け、「大多田水源林造成事業記念樹」と題して植樹祭が始まり、桧を24本植樹しました。</p> <p>【植樹本数】平成24年 桧180本、平成25年 桧180本、平成26年 桧50本（桜50本）、平成27年 桧60本</p> 
<p> 今後の展開</p>	<p>植樹が5年経つと背丈が150cmまで伸びた樹木の枝打ち、間伐を行い風通しと陽当たりを良くしていき、力強い樹木に育て上げることに力を入れていきたいです。</p>
<p> 活動者から</p>	<p>大多田地区の子どもたち、椎茸の木体験など山に親しんでもらうための企画をしていきたい。また、黒瀬の丸山地区には、国際大学の吉川教授が率いる「丸まるサロン」の学生たちには「地域とふれある山体験」を企画するなど、この活動を広げていきたいと思っています。</p>

13

水辺教室

～ 水生生物を学ぶ学習 ～

活動している人たち	東広島市公衆衛生推進協議会 黒瀬支部																					
主な活動地域・場所	黒瀬川																					
目的	水辺の環境保全																					
主な活動	<p>夏は、黒瀬町内の小学3年生以上の児童を対象に、水辺教室を開催。黒瀬川の水生生物を採取して生物の仕分けをしたりして、黒瀬川に住んでいる生き物について学んでいます。</p>  <p>冬は、黒瀬水質管理センターを見学して水の循環について学んだり、黒瀬川の野鳥観察を行います。</p>																					
 ここがポイント！	<p>◎参加した子どもたちからは「いっぱい魚が捕れて嬉しかった」、「小さい虫について知ることができた」など、川の生き物に触れられた喜びの声が上がっています。</p> <p>◎川の水をきれいにすることによって集ってくる野鳥について、専門家の先生から説明を受けながら望遠鏡で野鳥の観察を行いました。</p>																					
 これまでのあゆみ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【参加人数】</th> <th>夏</th> <th>冬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年度…</td> <td>20人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>平成25年度…</td> <td>22人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>平成26年度…</td> <td>17人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>平成27年度…</td> <td>17人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>平成28年度…</td> <td>19人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度…</td> <td>21人</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>	【参加人数】	夏	冬	平成24年度…	20人	18人	平成25年度…	22人	26人	平成26年度…	17人	24人	平成27年度…	17人	30人	平成28年度…	19人	18人	平成29年度…	21人	中止
【参加人数】	夏	冬																				
平成24年度…	20人	18人																				
平成25年度…	22人	26人																				
平成26年度…	17人	24人																				
平成27年度…	17人	30人																				
平成28年度…	19人	18人																				
平成29年度…	21人	中止																				
 今後の展開	<p>今後も継続することによって、川の大切さや、生き物がたくさんいることを知ってもらい、自然を大切にする心を育成していく。</p>																					
 活動者から	<p>外来生物が増えている黒瀬川の悪い現状を知ること、改めて黒瀬川環境について考えなおす良い機会にもなっています。</p>																					

14	<h2 style="margin: 0;">神洗川（ホタル川）の清掃</h2> <h3 style="margin: 0;">～丸山ホタルよ、永遠に～</h3>
活動している人たち	主催者：丸山ほたるの会一同 協力者：丸山地区住民と広島国際大学生ボランティア
主な活動地域・場所	神洗川
目的	ほたる祭りを開催
主な活動	黒瀬丸山地区の住民と各団体のボランティアの皆さんが地域を流れる神洗川の清掃を行っています。神洗川には、昔からホタルが生息していて、今でも多くのホタルを見ることが出来ます。このホタルを、末永く守るために広島県のアドプト制度を導入して活動しています。
 ここがポイント！	◎ほたる橋 ホタルが乱舞する光景を南北 100m鑑賞できる。 “ほたる橋”を中心に絶景です。
 これまでのあゆみ	【活動開始時期】平成29年 丸山区民からの要望にて第1回目となる丸山区ホタル祭りを平成29年に開催しました。たくさんの方々の参加で大変盛り上がりました。バザーゲームや天体観測、和太鼓等を行いました。来年も行いたいと思っています。
 今後の展開	丸山区を流れる神洗川は約1キロあります。全ての所にホタルが生息していますが、清掃箇所をどのように延長していくかが課題です。
 活動者から	災害などで川床や河壁が破損した場合、ホタル等の生息を維持するために、自然にやさしい修復を考えていかなければならないと思っています。



15

ホタルの里づくり

～ ホタルの舞う里をとりもどそう！ ～

活動している人たち	主催者：上戸野地区住民自治協議会 協力者：リコージャパン株式会社
主な活動地域・場所	福富ダム下流域
目的	水辺環境の整備、保全
主な活動	<p>福富ダム下流域でホタルが舞う環境を守るために、住民自治協議会の環境・景観部会が主体となって、川沿いの草刈り、彼岸花の施肥、ホタルのエサになるカワニナ採りなどを行いながら、河川やその周辺の環境整備を行っています。</p>  <p>また、この活動は、リコージャパン株式会社の皆さんにも参加していただいております、市民と企業が協働で取り組んでいるものです。</p>
 ここがポイント！	<p>◎企業と連携して活動しています。</p> <p>◎活動場所ではホタルの他に、オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ等の淡水魚が生息し、春には新緑、秋には紅葉を楽しむことができます。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成20年 地域センターの上流側で「ホタルの里づくり」活動を始めました。</p> <p>平成20年 市のボランティア企業応募があり、その中で両者が合意してリコージャパン株式会社の皆さんとの協働が始まりました。</p> <p>平成27年 それまでの活動場所が、河岸の防災工事で三面張りになったため、福富ダムの下流側のダム直下に活動場所を移しました。</p>
 今後の展開	ホタルの乱舞鑑賞会や川祭りを開催したいと考えています。
 活動者から	活動を行っている福富ダム下流域は、自然環境に恵まれた美しいところ。この環境をいつまでも守っていけるよう、引き続き活動していきたいと思っております。

16

えひめAⅠ（環境浄化微生物）の作製・配布・普及

活動している人たち	東広島市公衆衛生推進協議会 福富支部
主な活動地域・場所	福富町内
目的	‘もっと’きれいな水の町 福富町を目指しています。
主な活動	<p>「えひめAⅠ」を作製し、福富町を中心に散布、配布しています。また、環境学習講座を市内全域で開催しています。</p> <p>福富町の川の水を‘もっと’きれいにするには、地域住民の環境への意識を高める必要があります。そこで、私たちは、誰でも手に入る材料で、誰でも作れて、誰もが安心して使うことができる「えひめAⅠ」を通じて、環境を守る大切さを伝えたいと考えています。</p>
 ここがポイント！	<p>◎材料は、ヨーグルト、納豆、ドライイースト、砂糖です。材料に含まれる乳酸菌、納豆菌、酵母菌を発酵培養させて作ります。</p> <p>◎菌や発酵産物の働きで、台所やトイレ等の汚れを分解したり、家庭菜園で土壌の発酵を促進する効果があると言われています。</p> <p>◎使用したえひめAⅠが川に流れ込むことで、汚れの分解が促進され、水が浄化されると言われています。</p> <p>◎おとなから子どもまで一緒に作れます。地域の人たちがみんなで作ることで、地域の一体感が生まれます。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成25年 活動開始。えひめAⅠを作り始めました。</p> <p>平成26年 福富物産しゃくなげ館に提供し、使われ始めました。</p> <p>平成27年 福富町以外でも、えひめAⅠの作り方や使い方を教える環境学習を始めました。</p> <p>平成28年 福富町内の地域センターや図書館で配付を始めました。</p>
 今後の展開	<p>みんなで、楽しみながら活動をしています。活動を通じて、環境に対する意識や知識を高めることができました。今後も、楽しみながら、継続していきたいと思えます。</p>
 活動者から	<p>地域センター等で環境学習講座を開催したり、図書館や地域センターで配布用のえひめAⅠや資料を設置しました。利用者からは、「換気扇をつけ置きしたら、油汚れが落ちた！」等、感想が寄せられています。今では、えひめAⅠを取りに来られる方も多くおられます。</p>



えひめAⅠ作成の様子（発酵）

17	<h2 style="text-align: center;">沼田川体験</h2> <h3 style="text-align: center;">～ きれいな沼田川をいつまでも ～</h3>	
活動している人たち	 すいすい倶楽部	
主な活動地域・場所	沼田川流域	
目的	水辺の環境保全	
主な活動 	<p>毎年3月には下流域の住民と一緒に道の駅「湖畔の里福富」の近くで植林交流会を行っています。</p> <p>活動の一つに小学生との交流もあり、地元の竹仁小学校 30人の子どもたちと沼田川探検を行いました。子どもたちと一緒に川に入って、川に住む生き物を捕まえたり、捕った生き物を観察するなどの体験をし、地元の川にはどのような生き物が住んでいるのか知ってもらい、河川環境について学んでほしいと考えています。</p>	
 ここがポイント！	<p>◎すいすい倶楽部は川遊びが大好きな大人が結成したグループで、沼田川の水が水道用水として利用されている下流（三原市・愛媛県上島町）の町と交流をしながら地域の活性化を推進しているグループです。</p> <p>◎普段、川で遊ぶことが無い子どもたちは毎年、楽しみにしてくれています。</p>	
 これまでのあゆみ	<p>平成11年 旧福富町と旧愛媛県弓削町の町長同士の話し合いをきっかけに、両町のつながりを形成していきました。</p> <p>平成12年 7月 すいすい倶楽部が誕生しました。</p> <p>沼田川流域の上下流交流、環境啓発活動、小学校の課外授業の協力、アクアの森での植林活動などを行っています。</p>	
 今後の展開	<p>活動範囲を福富町の外にも広げていきたいと考えています。具体的には、まちなかを流れる川について、地域のこども達と水生生物の調査を行い、地域の自然に興味を持ってもらいたいと思っています。</p>	
 活動者から	<p>私たちも、子どもたちと一緒に魚捕りに夢中になってしまいます。いつまでもきれいな沼田川を守って行けるように、これからも続けていきたい活動です。</p>	

18

国の特別天然記念物 オオサンショウウオの保全活動 ～ ふるさと豊栄の美しい環境を守る ～

活動している人たち	主催者：豊栄小学校 協力者：豊栄地域住民、  広島大学総合博物館、東広島市自然研究会 等
主な活動地域・場所	豊栄町内を流れる棕梨川
目的	オオサンショウウオが住み続けられる環境の保全
主な活動	<p>豊栄小学校では4年生が総合学習の時間を活用して、棕梨川に生息しているオオサンショウウオを守るための取り組みをしています。</p> <p>この取り組みでは、子どもたちがオオサンショウウオの生態や、川の水を汚さないためにできることなどについて学び、豊栄の環境を守るために自分たちにもできることを考えてきました。</p> <p>これまでに、啓発看板の作成、川沿いのごみ拾い、広島大学や市文化課の協力でオオサンショウウオの幼生の放流などを行いました。</p> <div data-bbox="1034 533 1460 734" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">オオサンショウウオ幼生の放流</p>
 ここがポイント！	<p>◎この取り組みを通じて多くの地域の方と触れあったことで、子どもたちの地域への感謝や、豊栄への愛情が深まったように感じます。</p> <p>◎毎年度、その時の4年生が取り組みを受け継いでいくことで、校内だけでなく、地域の中でも取り組みが認識されつつあります。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成26年度 この年度の4年生が取り組みを始めました。</p> <p>平成27年度 環境省主催の「こどもホタレンジャー」でこの取り組みが環境大臣賞を受賞しました。</p> <p>平成28年度 広島大学の調査・研究に参加させていただき、初めてオオサンショウウオの幼生の放流を行いました。</p> <p>平成29年度 お世話になった方々を迎えて、取り組みの成果を発表する会を行いました。</p>
 今後の展開	<p>今後も、各年度の4年生が活動を引き継いでいく予定です。</p>
 活動者から	<p>平成29年度は初めて児童が川のごみ拾いに出かけ、オオサンショウウオの住む環境を守るための直接的な取り組みを行いました。きっかけになったのが、棕梨川の調査に行った時に見た、川に捨てられた空き缶やビニール袋でした。その時に感じた気持ちが、これからもふるさと自然を守っていく持続的な活動につながるのではないかと考えています。</p>

19

エヒメアヤメの里づくり

～ 希少植物のエヒメアヤメを守ろう ～

活動している人たち	エヒメアヤメの里 天神原 同好会
主な活動地域・場所	豊栄町吉原 エヒメアヤメの里
目的	希少植物のエヒメアヤメを保全する。
主な活動	<p>豊栄町吉原の天神嶽の麓に広がるエヒメアヤメの群生地を「エヒメアヤメの里」と位置付け、里の環境整備などを行っています。この整備では、エヒメアヤメが生育しやすいように、周辺の下刈りを行ったり、里を訪れる人たちのための案内看板の設置などを行っています。</p>  <p>エヒメアヤメが可憐な花をつける春には「エヒメアヤメ天神原まつり」を開催し、毎年200人以上の方にお越しいただいています。夏には、育てることが難しいエヒメアヤメの維持管理などについて詳しく学べる「エヒメアヤメの播種、育苗」のセミナーも開催しています。</p>
 ここがポイント！	<p>「エヒメアヤメの里天神原まつり」では、訪れた人に楽しんでもらえるよう、エヒメアヤメの説明や地元農産物等の直売、抹茶野点などを行い、地域おこしの一助ともなっています。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成25年 住民自治協議会 吉原振興会がエヒメアヤメの里の本格的な環境整備を始めました。</p> <p>平成26年 同好会を発足し、園の所有者の金石家や吉原振興会と共に保存活動を始めました。5月には「エヒメアヤメ天神原まつり」を開催しました。</p> <p>平成27年 全国エヒメアヤメサミットに参加し、エヒメアヤメの保全活動などについて報告しました。</p>
 今後の展開	<p>里にはエヒメアヤメの他に、同じく希少植物のハルリンドウも自生しています。今後は、ハルリンドウ保存育成も行う予定です。</p>
 活動者から	<p>エヒメアヤメの里は一般公開をしているため、これまでに盗掘の被害を受けたこともありました。エヒメアヤメを掘り起こしても、必ず枯れてしまいます。エヒメアヤメの育苗セミナーでは、苗を持ち帰れますので、ぜひセミナーにご参加ください。</p>

20

希少植物の保全活動

<p>活動している人たち</p>	<p>宇山地域農地環境保全管理組合 山野草クラブ</p>
<p>主な活動地域・場所</p>	<p>河内町宇山地区</p>
<p>目的</p>	<p>地域の財産である希少植物を保護・育成する。</p>
<p>主な活動</p>	<p>宇山地区には、エヒメアヤメやイチリンソウなどの希少植物が自生していますが、盗掘されたり、イノシシに荒らされたりしている状況を危惧して、保全する活動を行っています。</p>  <p>ヒトリシズカの花</p> <p>また、希少植物を増やして、宇山で絶滅したオオムラサキやヒョウモンモドキをよみがえらせるという大きな目標を持って活動しています。</p>
<p> ここがポイント！</p>	<p>◎毎月パトロールをして、除草、観察、今後の対策等の保全に努めています。</p> <p>◎活動の振り返りができるように、保全活動や植物の成育の記録をノートにまとめています。</p> <p>◎多くの人に興味・関心を持ってもらえるように、プロジェクター上映等で宇山の希少植物について区民に紹介しています。</p>
<p> これまでのあゆみ</p>	<p>平成22年 エヒメアヤメの種まきを始めました。</p> <p>平成24年 害獣対策のために、電気柵やメッシュを張りました。</p> <p>平成26年 初めてエヒメアヤメの花を咲かせることができました。</p> <p>平成27年 ナツツバキの挿し木をし、根付かせました。</p> <p>平成28年 パトロールをして環境保全に務めました。</p> <p>平成29年 希少植物の発見・保護・記録をしています。</p>
<p> 今後の展開</p>	<p>希少植物は、環境の影響を受けやすいので、環境整備が重要です。そのためにも、より多くの区民に関心を持ってもらえるように情報発信して、地域全体で環境整備を進めていければと考えています。</p>
<p> 活動者から</p>	<p>断続的な活動ができるように年間計画を立てていますが、計画通りに進まないこともあります。盗掘の対策もできておらず、まだまだ課題は尽きませんが、大きな目標を達成できるように、これからも地道に活動を続けていきます。</p>

21

ごみの分別・リサイクル習慣

活動している人たち	主催者：入野 簗の郷、入野地区公衆衛生推進協議会 協力者：入野小学校
主な活動地域・場所	河内町入野地区
目的	ごみの分別やリサイクルの意識が高い地域を作る
主な活動	<p>各家庭でごみの分別が徹底されるよう、毎月のごみ収集日がわかるチラシを作成・配布しています。また、入野会館のエコステーションではリサイクル可能なものを収集しています。</p>  <p>資源回収で得たお金は、地域の小中学校や地域活動に活用しており、取り組みの成果が地域に還元されている活動です。</p>
 ここがポイント！	<p>チラシは、ごみの収集日が高齢者の方にも分かりやすい文字の大きさをで作成し、また、入野小学校の3・4年生のエコ標語も掲載しています。子どもから大人まで、地域全体で、「ごみの分別→リサイクル→減量」が日々の生活に溶け込むような工夫です。</p>
 これまでのあゆみ	<p>平成17年 河内町と東広島市が合併した際に、ごみの分別方法の意識の低下が見受けられました。旧河内町時代のごみの分別やリサイクルの意識を忘れないために、チラシの作成を開始しました。</p> <p>平成19年 自治組織の拠点である入野会館を建設した際に、地域住民が新聞紙、ダンボールなどを持ち込めるエコステーションを設置しました。</p> <p>平成30年 継続してチラシの作成・配布をしています。また、エコステーションの活用が広がり、すぐに資源物でいっぱいになるなど、地域でのごみの分別の習慣化が進んでいます。</p>
 今後の展開	<p>現在は、エコステーションが入野会館にしかないため、より多くの住民が利用しやすいように、エコステーションを増やしていきます。</p> <p>平成30年度は、入野地域センターに設置する予定です。</p>
 活動者から	<p>地域全体に習慣を根付かせることは大変ですが、ごみを分別する意識の高い入野地区を目指してこれまで続けてきました。途中で諦めてしまっても何も変わりません。「願いは思い続ければ、いつか叶う」と信じて、地域の方々と一緒に頑張っています。</p>

22

干拓堤防松並木の整備作業

～安芸津ならではの美しい風景を守るために～

<p>活動している人たち</p>	<p>風早自治協議会、風早公衆衛生推進協議会</p>
<p>主な活動地域・場所</p>	<p>風早地区の干拓堤防</p>
<p>目的</p>	<p>干拓堤防の景観整備</p>
<p>主な活動</p>	<p>三津湾を囲む干拓堤防に植えた松並木の剪定や下草刈り作業などを行っています。</p> <p>また、路面にはところどころ穴が開いているところがあるので、ウォーキングなどで訪れた人たちが安全に過ごせるように、真砂土で穴を埋める作業も行っています。</p> 
<p> ここがポイント！</p>	<p>◎松並木の整備は、干拓堤防の景観整備だけではなく、そこから見える美しい瀬戸内の景色を輝かせることにもつながります。</p> <p>◎松並木沿いの遊歩道からは、カキ筏が浮かぶ穏やかな瀬戸内海や、保野山の斜面の「万」の文字を望むことができます。</p>
<p> これまでのあゆみ</p>	<p>平成16年 地元の人たちが干拓堤防に松並木を植えました。</p> <p>現在 毎年、夏と冬の2回の整備作業を行っていて、多い時には30人以上で作業をしています。</p>
<p> 今後の展開</p>	<p>少しでも多くの方が憩える場として松並木や、そこから見える風景を楽しんでもらえるように、これからも継続して環境整備に取り組んでいきます。</p>
<p> 活動者から</p>	<p>毎回、松並木の中から弁当ガラクタ等のごみがたくさん出てきます。自分で出したごみは自分で持ち帰り、きれいな堤防になるようご協力をお願いします。</p> <p>また、ウォーキング等で利用されている方々もこの活動にぜひ参加してみてください。</p>

23

木谷はっけん野あそび会

～魅力いっぱい！ 里海の生き物たち～

活動している人たち	主催者：木谷はっけん野あそび会 共催者：木谷自治協議会
主な活動地域・場所	赤崎海岸周辺（東広島市安芸津町木谷）
目的（願い）	子どもたちに自然の中で思い切り遊ぶ経験を通じて、地域の良さを実感して育てて欲しい。大人も地域の自然の魅力を見つけて欲しい。
<p>主な活動</p> <div data-bbox="233 725 491 981" style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>今年度はアカテガニの観察会は実施していません</p> </div>	<p>【春休み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロウオ観察会（春に河口に遡上するシロウオを捕まえて観察する） <p>【夏休み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカテガニの産卵観察会（大潮の満潮時に集団産卵するアカテガニを観察する） ・ハクセンシオマネキの観察会（木谷小学校脇の海岸にすむ希少なカニを調査する） ・ウミホタルと音楽の夕べ（日が沈む浜辺で音楽や地域の民話を聞き、ウミホタルを観賞する） ・科学研究で木谷のお宝さがし（小学生の夏休みの科学研究を木谷地域のテーマで取り組む） 
<p>♥ ここがポイント！</p>	<p>◎名称の「野あそび会」のように、単なる生物観察会でなく、解説を簡潔にして、野外で実際に参加者自身に見つけてもらう自由度を確保して、子どもが主役になれるように工夫しています。</p> <p>◎春に河口に遡上するシロウオは、子どもたち自身で創意工夫しながら捕まえます。幼児でも簡単に手で捕まえられ、捕まったものは食べられるのが魅力です。夏の大潮の夜には、海辺に大集合して産卵するアカテガニを観て、ウミホタルの神秘的な青い光を手でさわってみます。生き物の不思議や美しさをみんなで見守れる体験会としています。</p>
<p>📅 これまでのあゆみ</p>	<p>平成21年3月の「シロウオとあそぼう」が初回行事 平成22年5月に「ホタルと出会う夜のおさんぽ」、8月に「生命の神秘アカテガニの産卵」を開始。以降、シロウオ・ホタル・アカテガニで、年に2～4回の開催。平成23年のアカテガニの回からウミホタルの観賞も導入。平成27年8月に「ハクセンシオマネキをさがせ！」、「ウミホタルと音楽の夕べ」、「科学研究で木谷のお宝さがし」を開始した。9年間で31回 参加者のべ1,150人</p>



今後の展開

- ◎低学年の原体験としての自然遊びだけでなく、高学年がより深く地域の魅力を認識できるよう、夏休みの科学研究の機会を使って、地域のテーマ（ホボロ島、ウミホテル、出稼ぎ杜氏、魚釣り）で調査したり、地元の詳しい人から聞き取ったりしています。保護者も含めて極めて興味深い学びの機会となり、今後は学びの成果を整理して地域の人に伝えて行きたいと思います。
- ◎行事を重ねて、地域特有の生き物への子どもたちの認知が広がり、漠然とした「自然が豊か」という認識が、より具体的に実感できるようになったようです。自慢できる地域の良さを知っていることで、将来的に地元で暮らしたい人が増えればと思います。
- ◎最初は参加者を木谷地域限定で実施していましたが、3年目以降は西条周辺など市内からもお誘いしています。地域外の参加者が、海の自然を珍しがって喜んでくださることで、地域住民がその良さを再認識できるようです。ただ、大人数では実施困難なので、大々的な広報は未実施です。地域が少子化なので、今後はSNSなどを通じた告知で、地域外からの参加者も適度に呼び込めるようにしていきたいです。



活動者から

- ◎生き物相手なので、気候や潮の干満時間などを考慮し、発生ピークを予想して実施日を合わせることに苦労します。予想が外れたり天気が悪かったりで、予備日や延期など臨機応変な対応も必要です。参加希望者が多い時には、2回に分けたり、2カ所に分かれたりして実施することもあります。
- ◎発起人が個人的に始めた活動ですが、実績を重ねるにつれて、地域の理解と協力を得られるようになってきました。5年目以降は自治協の教育文化部の活動に位置づけてもらい、回覧による告知や、当日の安全管理の支援や行事保険の適用など、地域行事としての運営ができるようになりました。
- ◎子育て期にUターン移住をする家族の背中を押せるように、長期休暇に帰省する家族にも参加してもらい、地域の魅力を認識してもらおう一助になれば、という下心も持ちつつ、これからも活動を続けていきたいと思っています。